

# 株式会社ウェッジホールディングス 2010年9月期 決算説明会



2010年11月18日

株式会社ウェッジホールディングス  
代表取締役社長 田代 宗雄

WWW

# CONTENTS

- **企業概要**
  - 会社概要
  - 事業領域
  - 沿革
  - 主要グループ会社の構成
- **2010年9月期業績と財務状況**
  - 2010年9月期連結経営成績(P/L)
  - 2010年9月期個別経営成績(P/L)
  - 修正業績予想との乖離要因について
  - 連結業績の推移
  - 2010年9月期 連結財務状況(B/S)
- **セグメント別業績と事業トピックス**
  - セグメント別売上構成
  - 投資育成事業の収益貢献
  - ファイナンス事業の躍進
  - Group Leaseの強み
  - ファイナンス事業の業績
  - コンテンツ事業・物販事業の再編
  - コンテンツ事業・物販事業の経営成績
- **2011年9月期事業方針と取り組みについて**
  - 事業方針
  - 東南アジア:タイ国内リース営業地域の拡張
  - 国内新規事業:スポーツ関連事業に参入
  - 事業育成:邦楽市場で独自の展開
  - 電子書籍・配信市場での挑戦
  - 日本橋に新オフィスを移転開設
  - 当社グループの課題について
- **業績予想と株主還元について**
  - 2011年9月期(第10期)の連結業績予想
  - 2011年9月期(第10期)の個別業績予想
  - 今後の事業拡大イメージ
  - 株主還元に関する方針

# 企業概要

# 会社概要

- **会社名: 株式会社ウェッジホールディングス**  
(英語表記: Wedge Holdings CO., LTD.)

- － **設立:** 2001年10月
- － **資本金:** 1,839,143,700円
- － **上場市場:** JASDAQ グロース
- － **代表者:** 代表取締役社長 田代宗雄
- － **本部事業所:** 東京都中央区日本橋本町1-9-4  
Daiwa日本橋本町ビル
- － **従業員数** 294人(うち海外214名)

※グループ全体・2010年9月末時点

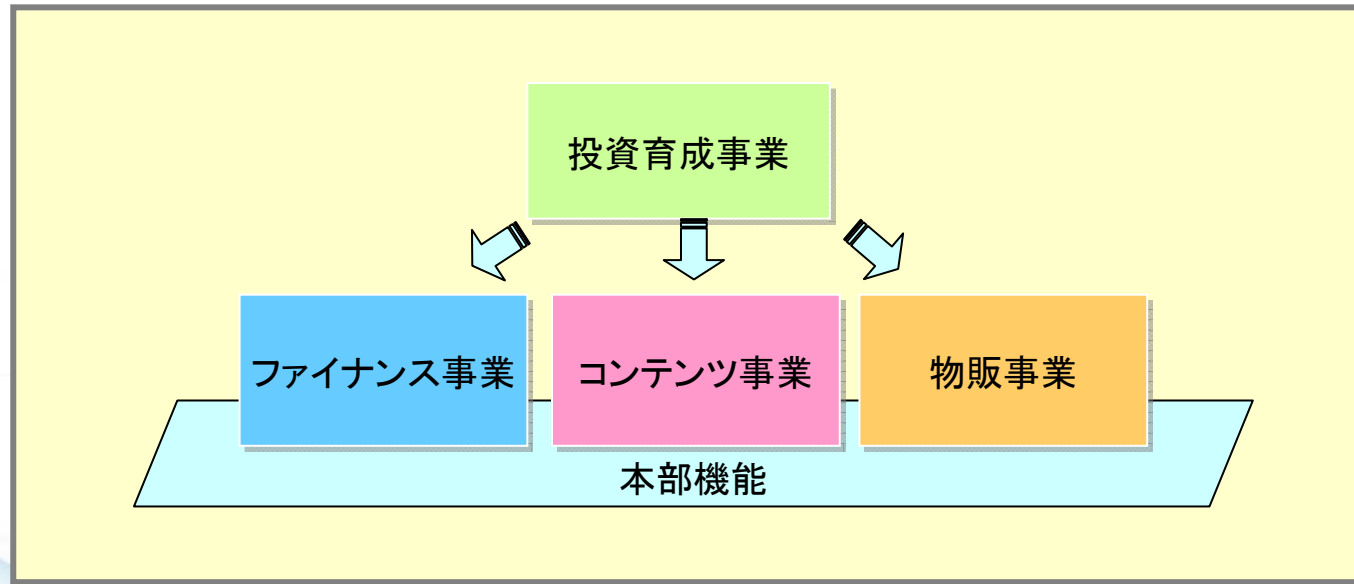
## － グループ会社

- **国内子会社** 株式会社 ラディクスモバニメーション  
株式会社 Pepto One Nutrition (2010年10月子会社化)
- **海外子会社** Group Lease PCL(タイ 証券取引所一部上場)  
Engine Holdings Asia PTE(シンガポール)

# 事業領域

## • 4つの事業セグメント

- 投資育成事業：国内外の優良資産・有価証券等への投資  
M&Aを通じた事業領域開発
- ファイナンス事業：東南アジア、タイのオートバイリース事業
- コンテンツ事業：カードゲーム制作、書籍編集、出版、  
音楽CD等の制作・流通
- 物販事業：海外キャラクター商品・玩具の卸売・小売・Web通販



# 沿革

- 2001年10月 株式会社ブレインナビとして設立
  - » 編集プロダクション事業を中心に展開
- 2004年1月 大阪証券取引所ヘラクレス市場（現JASDAQ）に株式上場
  - » 翌年に向け、物販事業、投資事業へとM&Aを含め事業領域を拡大
- 2005年7月 会社分割により株式会社ウェッジホールディングスとして持ち株会社に移行
  - » その後一部の子会社の吸収により事業持ち株会社化
  - » 2007年9月期まで3期連続の赤字が続く業績低迷期に
  - » 2007年9月 第三者割当増資により東南アジアに展開する投資会社APFグループが筆頭株主に
- 2007年12月 経営体制を刷新、改革に着手
- 2008年11月 2008年9月期、黒字転換
- 2009年7月 タイ株式市場一部上場ファイナンス会社 Group Lease PCLを連結子会社化
- 2010年3月 映画・映像事業子会社を売却、同事業から撤退
- 2010年7月 コンテンツ事業・物販事業子会社を吸収合併

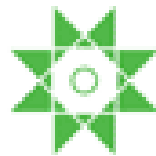
# 主要グループ会社の構成

- ・東南アジア、タイ・シンガポールへと事業領域を拡大
- ・国内は既存子会社の吸収合併でシンプルな事業体に



Group Lease PCL  
タイ・ファイナンス事業

48.58%保有



**ENGINE**  
Holdings **ASIA**

ENGINE HOLDINGS ASIA 100%保有  
シンガポール  
投資育成事業



株式会社  
ウェッジホールディングス  
投資育成・コンテンツ・物販



# 2010年9月期 業績と財務状況

# 2010年9月期連結経営成績（P/L）

（単位：千円）

	2009年9月期	2010年9月期	増減	対前期比
売上高	2,417,459	3,699,833	1,282,374	153.0%
営業利益	137,362	802,506	665,144	584.2%
経常利益	322,026	761,444	439,418	236.5%
四半期純利益	204,089	369,524	165,435	181.1%

	2009年9月期	2010年9月期	前期比較
一株あたり四半期純利益	1,673.25	1,597.52	-4.5%
潜在株式調整後一株あたり四半期純利益	1,627.39	1,418.68	-12.8%

- ・ファイナンス事業のフル連結が寄与、売上高は前年比1.5倍に
- ・ファイナンス事業の収益性の大幅伸張が貢献し、前年比で営業利益は5.8倍、経常利益は2.3倍と飛躍的な伸張
- ・当期純利益は、ファイナンス事業の少数株主持分の流出により、見通しを下回る結果となるも前年比では1.8倍に

# 2010年9月期個別経営成績（P/L）

（単位：千円）

	2009年9月期	2010年9月期	増減	対前期比
売上高	722,076	923,178	201,102	127.9%
営業利益	97,900	83,401	▲ 14,499	85.2%
経常利益	114,782	110,163	▲ 4,619	96.0%
当期純利益	79,588	320,411	240,823	402.6%

・コンテンツ事業・物販事業中心に国内事業の再編が進んだ影響により昨年比で大幅な変動に。

・2010年7月の子会社吸収により、2事業部が新設、事業拡大により単体売上高が増加。

・映画・カードゲーム・出版などコンテンツ事業の不調から営業・経常利益は減少に。

・2010年3月の子会社売却により特別利益(1.4億)が発生。

# 修正業績予想との乖離要因について

## ・連結業績予想との比較

(単位：千円)

	2010年通期 修正予想	2010年通期 実績	増減	予想比
売上高	3,900,000	3,699,833	▲ 200,167	94.9%
営業利益	840,000	802,506	▲ 37,494	95.5%
経常利益	800,000	761,444	▲ 38,556	95.2%
当期純利益	450,000	369,524	▲ 80,476	82.1%

## ・売上高の主な不足要因

- 編集事業の受注不足と出版事業の電子書籍領域へのシフト
- カードゲーム事業のロイヤリティ収入の低調
- 物販事業の商品入荷不足

## ・上記影響以外の利益項目の主な不足要因

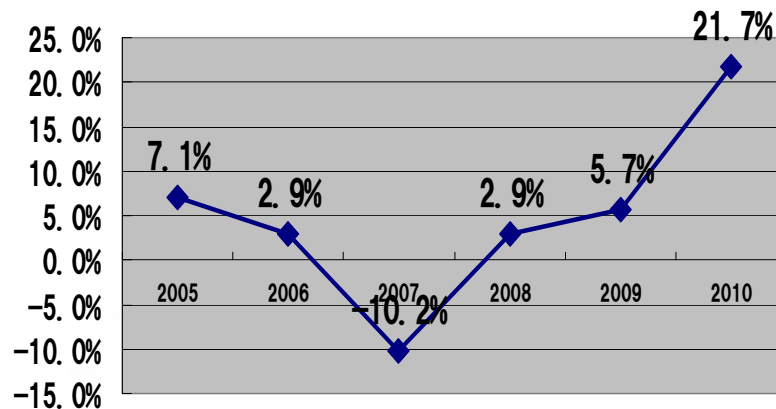
- Group Lease の利益における少数株主持分の流出による純利益減少

# 連結業績の推移

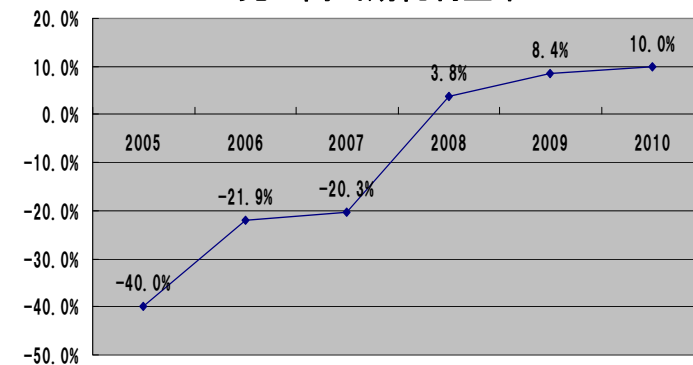
(単位：千円)

	2005	2006	2007	2008	2009	2010
売上高	1,337,059	3,277,380	2,593,505	2,139,054	2,417,459	3,699,833
営業利益	94,320	96,373	-265,347	62,321	137,362	802,506
経常利益	94,625	92,316	-273,791	146,164	322,026	761,444
当期純利益	-534,746	-717,671	-525,337	81,518	204,089	369,524

### 売上高営業利益率



### 売上高当期純利益率



- 2008年の経営改革以降は着実に収益性が伸張
- 2009年のファイナンス事業連結により売上高も回復へ
- 2010年9月期はファイナンス事業のフル連結で利益項目も大幅伸張

## 2010年9月期 連結財務状況（B/S）

	2009年9月期	2010年9月期	対前期比
流動資産	4,138,610	4,396,646	106.2%
固定資産	3,744,033	5,669,137	151.4%
資産合計	7,882,643	10,065,783	127.7%
短期借入金	2,148,483	2,343,091	109.1%
固定負債	1,521,106	1,817,807	119.5%
負債合計	4,082,228	4,574,780	112.1%
株主資本合計	2,760,784	4,210,142	152.5%
純資産合計	3,800,414	5,491,003	144.5%

流動比率	161.6%	159.5%	(単位：千円)
固定比率(固定資)	135.6%	134.7%	
自己資本比率	35.0%	41.8%	
D/E レシオ	132.7%	98.6%	

- ・投資育成事業の投資拡大とファイナンス事業の事業の成長により固定資産が増加（固定負債・短期借入金もファイナンス事業の規模拡大に伴い増加）
- ・発行済の転換社債の転換（4億円）、第三者割当増資（7億円）などにより自己資本が拡充、国内の普通社債返済と純利益増加からも安全性指標は一層向上

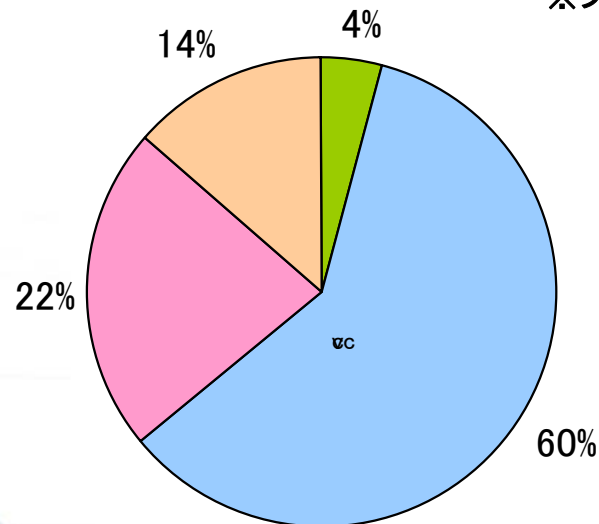
# セグメント別業績と 事業トピックス

# セグメント別売上構成

(単位：千円)

	2010年9月期		(ご参考) 2009年9月期		前年同期比 増減率
	売上高	比率	売上高	比率	
投資育成事業	155,399	4.2%	80,313	3.3%	93.49%
ファイナンス事業	2,209,701	59.7%	514,371	21.3%	329.59%
コンテンツ事業	831,486	22.5%	1,170,310	48.4%	-28.95%
物販事業	503,245	13.6%	652,464	27.0%	-22.87%
(合計)	3,699,833	100.0%	2,417,459	100.0%	53.05%

※ファイナンス事業は2009年9月期は第4四半期のみ連結



- ・連結によりファイナンス事業の比率が大幅に拡大
- ・投資育成事業売上も事業規模は着実に拡大。
- ・映画・映像事業の売却、国内事業再編で  
コンテンツ事業・物販事業の売上比率は低下
- ・東南アジア売上高の構成は連結売上の59.7%に

■ 投資育成事業 ■ ファイナンス事業 ■ コンテンツ事業 ■ 物販事業

# 投資育成事業の収益貢献

## ・運用資産の増加

有価証券を中心に東南アジアへの投資が着実に増加

2009年 約4.8億→2010年14.8億と運用資産が拡大、  
運用によるセグメント営業利益も1.2億に伸張(前期比32.6倍)

	2009年9月期	2010年9月期	増減	対前期比
売上高	80,313	155,399	75,086	193.5%
営業利益	3,742	122,164	118,422	3264.7%

## ・投資案件事例: Zeavola Resort 転換社債引受

- 2010年3月4日、タイの高級リゾートZeavola Resortの保有会社が発行する転換社債8億円(年利8%)を引受ける
- 利子収入確保とともに、今後株式転換によって同リゾートの約64%の所有が可能に

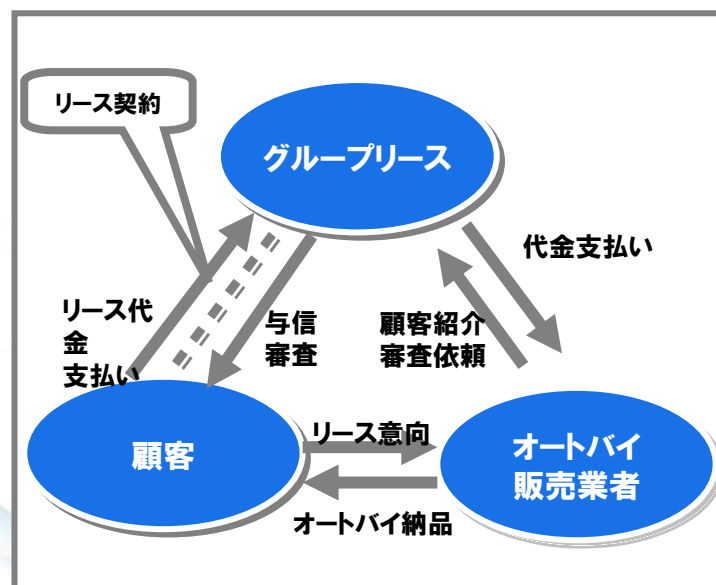


皮皮島

プーケット

# ファイナンス事業の躍進

- 良好な経済環境と営業地域拡大策により契約数が着実に増加
- 不良債権減少、回収率の向上により収益性も大幅に向上
- Group Lease PCL(グループリース、GL)について
  - 東南アジア タイでオートバイリース事業を展開。業界4位。
  - 高収益商材であるオートバイリースに特化、首都バンコク中心に営業、
  - タイ証券取引所1部上場(コードGL) 決算期12月
  - 当社は2009年7月より子会社化



# Group Leaseの強み

- **業務のシステム化とサービスの信頼性の高さに強み**
  - **スピーディで信頼度の高いクレジット承認プロセス**
    - 自社のシステム開発部門が開発した顧客・与信管理システムと効率化されたオペレーションで、**1時間から1.5時間で審査を完了する**洗練したサービスを実現
      - 競合他社は審査に数時間～数日かかるケースも。  
グループリースの顧客は申し込み後、ディーラー店舗内でオプション品等を選ぶ間に契約が成立
  - **迅速な支払手続きでディーラーから高い評価**
    - クレジット承認後、バイクディーラーへの支払が**3日以内に終了**
      - 競合は1週間程度。誠実なファイナンス会社としての評価確立に貢献。
  - **低い貸倒率を実現する回収プロセス**
    - 料金滞納顧客を4段階にカテゴライズし、各々のレベルで最適な回収行動を行うことで**低い貸倒率を実現 (わずか3~4%)**
      - 新規参入者や競合は貸倒率が高く収益性の悪化を招いている

# ファイナンス事業の業績

## ・ 2010年9月期セグメント業績

(単位：千円)

	2009年9月期	2010年9月期	増減	対前期比
売上高	514,371	2,209,701	1,695,330	429.6%
営業利益	192,899	869,103	676,204	450.5%

・通年連結により売上高・営業利益とも飛躍的な拡大、連結業績に大きく貢献

## ・ Group Lease 2010年3Q累計(9ヶ月)業績

	FY2009Q3 (9ヶ月)	FY2010Q3 (9ヶ月)	対前年比
売上高	1,610	1,686	104.7%
当期純利益	334	515	154.2%

(単位：百万円)

※円換算レートとしては2010年1月～9月月末  
平均値である1バーツ2.68円を採用

## ・ Group Lease 2010年3Q(7～9月) 四半期業績

	FY2009 Q3	FY2010Q3	対前年比
売上高	518	603	116.4%
当期純利益	152	164	107.3%

- ・積極営業施策の結果、新規契約が着実に増加、売上を牽引
- ・中古バイク市場が堅調で、貸倒損失が減少。利益率向上に貢献。
- ・直近の6月～9月は営業費用の増加もあり収益拡大は緩やかに。

# コンテンツ事業・物販事業の再編

- **不採算事業の整理**
  - － **映画・映像製作事業からの撤退**
    - 2010年3月映画・映像制作事業子会社、株式会社エースデュースを売却、同事業からは撤退。
    - 映像権利金の償却負担がなくなり、コンテンツ事業収益構造が大幅に改善
- **固定費の削減、効率化**
  - － **物販事業子会社の事業所・店舗移転統合**
    - 2010年2月株式会社エンジンが店舗・事業所の移転統合を実施。組織体制の見直とあわせて、固定費を大幅に削減。
  - － **子会社2社の吸収合併(2010年9月期)**
    - 2010年7月株式会社エンジン(物販事業)、株式会社スピニング(コンテンツ事業)を吸収合併
    - 事業部化で経営効率を改善するとともに、子会社の繰越損失活用による税務メリットを向上

# コンテンツ事業・物販事業の経営成績

## ・コンテンツ事業

(単位：千円)

	2009年9月期	2010年9月期	増減	対前期比
売上高	1,170,310	831,486	▲ 338,824	71.0%
営業利益	44,231	-12,167	▲ 56,398	-27.5%

- ・映画・映像製作事業の売却にともない大幅減収、上期の損失を補えず通期赤字に。
- ・高収益事業であるカードゲームのロイヤリティ収入も商品の端境期にあたり低調。
- ・子会社整理、不採算事業撤退の結果、下半期は大幅に収支改善、売上326百万円、営業利益44百万円と黒字化。

## ・物販事業

	2009年9月期	2010年9月期	増減	対前期比
売上高	652,464	503,245	▲ 149,219	77.1%
営業利益	-15,936	-11,415	4,521	71.6%

- ・固定費削減に取り組み店舗等を縮小、減収となるも損失幅は縮小。
- ・採算構造改善の結果、下半期は売上高241百万円、営業利益56万円と営業黒字を確保。

# 2011年9月期 事業方針と取り組みについて

# 事業方針

- The Asian Value Innovator

- 2010年3月 東南アジアの事業拡大へより注力する事業方針を発表
- 東南アジアの活況を活かした成長志向を続けつつも、第10期は今後の成長を果たすための海外での経営体制整備がテーマに
- 2010年までの事業の絞りこみを経て、日本国内は新規事業育成とビジネスモデルのシフトをはかる新たな段階へ

## 東南アジア

### 経営体制の強化

事業拡大にあわせ  
継続的な成長を果たすための  
体制整備に注力

- ・東南アジア事業における企業ガバナンス、統制の強化
- ・新たな投資対象事業の発掘
- ・既存事業の拡大推進 23

## 日本

### 新事業の育成

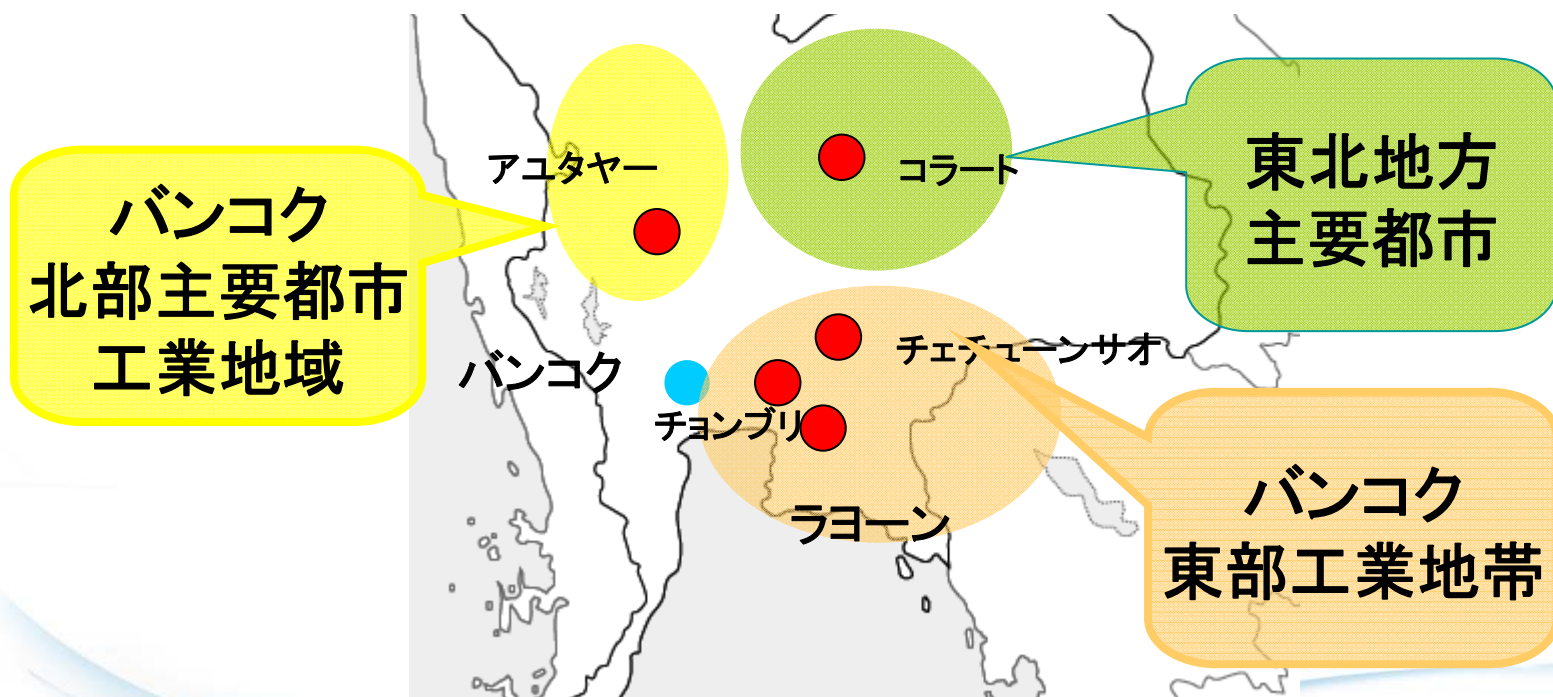
リストラクチャリングを経て、  
新たなビジネスモデルへの  
シフトを加速

- ・経営環境に適応する  
ビジネスモデルへの展開
- ・新規事業の育成

# 東南アジア：タイ国内リース営業地域の拡張

- Group Lease PCL

- タイ国内地方都市へ展開、営業拠点開設とオークション会場開設により、営業力・収益力強化へ
- オートバイディーラーとの関係確立を通じて、需要拡大と地域内シェア獲得を図る



- バンコク中心の営業エリアから地方都市の売上構成拡大に注力
- 顧客基盤を工業都市住民から地方都市・農村部住民へと拡大

# 国内新規事業：スポーツ関連事業に参入

## ● 株式会社ペプトワンニュートリション

- 当社事業開発部門が中心となり、事業化テストを行っていたスポーツ関連のプロジェクトを2010年10月1日完全子会社に。傘下で本格的な事業育成へ。
- アスリート向け高機能サプリメントの開発・販売とスポーツイベント企画運営の2軸で事業展開



スポーツイベント  
Pepto Project  
In 千葉県鋸南町



高機能アミノ酸系  
サプリメント  
PEPTO ONE



PEPTO ONE



# 事業育成：邦楽市場で独自の展開

## • スピニング事業部(音楽関連事業)

- 従来の洋楽インディーズレーベル事業に加え、新たに邦楽インディーズ事業にも展開
- 初の国内アーティスト「ALDIOUS」がデビュー、1stアルバムはオリコンランキング15位(インディーズ1位)のスマッシュヒットに
- 特定顧客カテゴリーにフォーカスし、CD販売に加えて物販・配信などを組み合わせるビジネスモデルを展開
- 2008年設立から3期目で単年度営業黒字を達成



国内アーティスト第一弾  
「ALDIOUS」



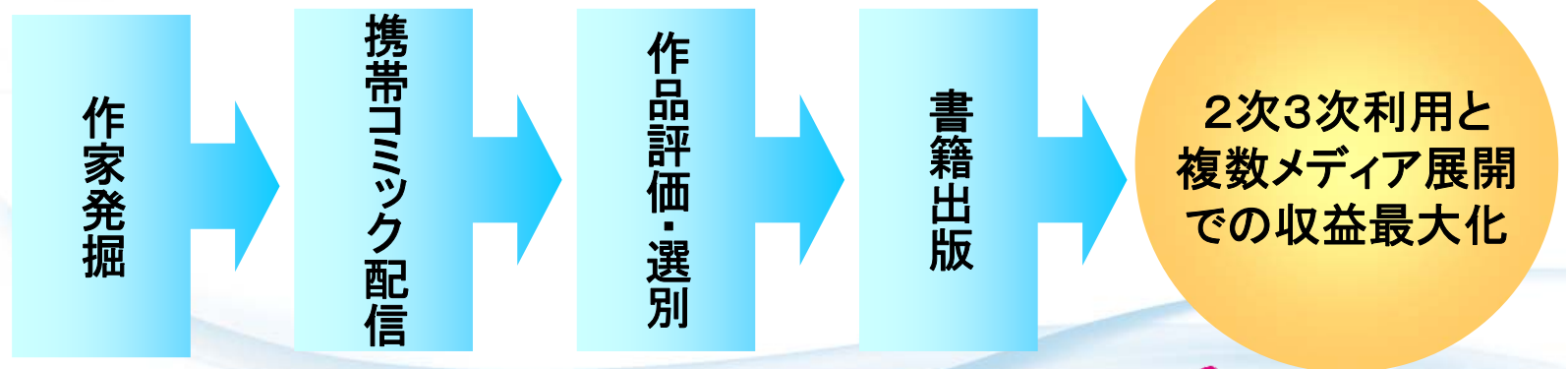
# 電子書籍・配信市場での挑戦

## ・ブレインナビ事業部

### － 電子書籍関連のプロジェクトが収益化へ

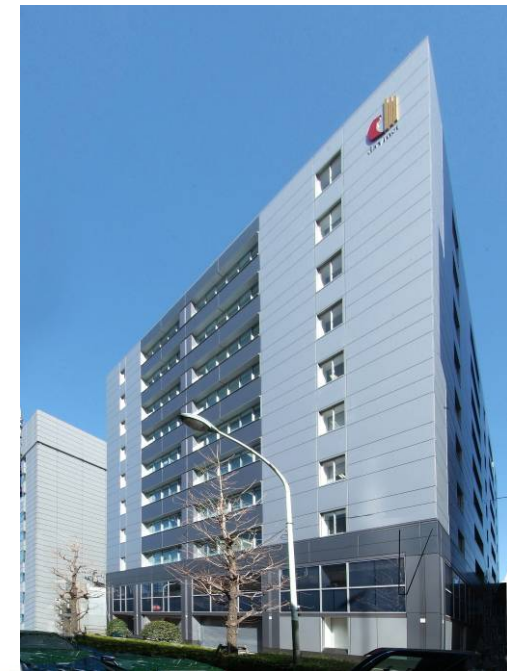
- － 2009年より開始した新規事業である書き下ろしコミックの携帯配信事業は収益事業化が視野に
- － 2008年より開始した出版事業との構成で配信から開始する新しいビジネスモデルの確立を図る
- － 立ち上がる電子書籍市場に向けた新たなプロジェクトにも積極的に挑戦中

### 【コミック配信を通じたビジネス展開】



# 日本橋に新オフィスを移転開設

- 中央区日本橋に新オフィスを開設、本部機能と国内主要事業部を移転
  - 改革と再編で取り組んだ国内事業の固定費圧縮に区切り
  - 新事業拡大に必要なフロア拡張を行なうとともに、フロア単価を抑え、コスト抑制との両立を図る



# 当社グループの課題について

## • 成長に伴う経営管理体制強化

- 海外事業の急拡大に対応した、経営管理体制の整備が重要に。
- 海外法人への日本基準での内部統制の徹底など個別課題についても対応充実を図る。

## • 人的資源の強化

- 事業領域拡大に伴うマネジメント層の強化、新規事業等プロジェクト型業務に対応するスタッフの育成を、就労環境整備等と合わせて推進中。

# 業績予想と株主還元について

# 2011年9月期（第10期）の連結業績予想

## ● 連結通期業績予想

	2010年実績	2011年予想	増減	増減率
売上高	3,699,833	4,100,000	400,167	110.8%
営業利益	802,506	1,000,000	197,494	124.6%
経常利益	761,444	950,000	188,556	124.8%
当期純利益	369,524	400,000	30,476	108.2%

## ● 連結中間期業績予想

	2010年実績	2011年予想	増減	増減率
売上高	1,871,634	2,000,000	128,366	107%
営業利益	310,194	500,000	189,806	161.2%
経常利益	291,294	450,000	158,706	154.5%
当期純利益	185,958	200,000	14,042	107.6%

- ファイナンス事業は契約数増加が続き、売上・利益の着実な拡大を見込む
- 国内事業の整理が完了、既存事業の売上は増加へ向かうも出版関連事業の電子書籍シフトなど、新規事業の育成に注力することから回復は緩やかに。
- 投資育成事業の東南アジアを中心とした大規模案件獲得は、今後も業績修正要因に。

# 2011年9月期（第10期）の個別業績予想

- 個別業績予想（通期）

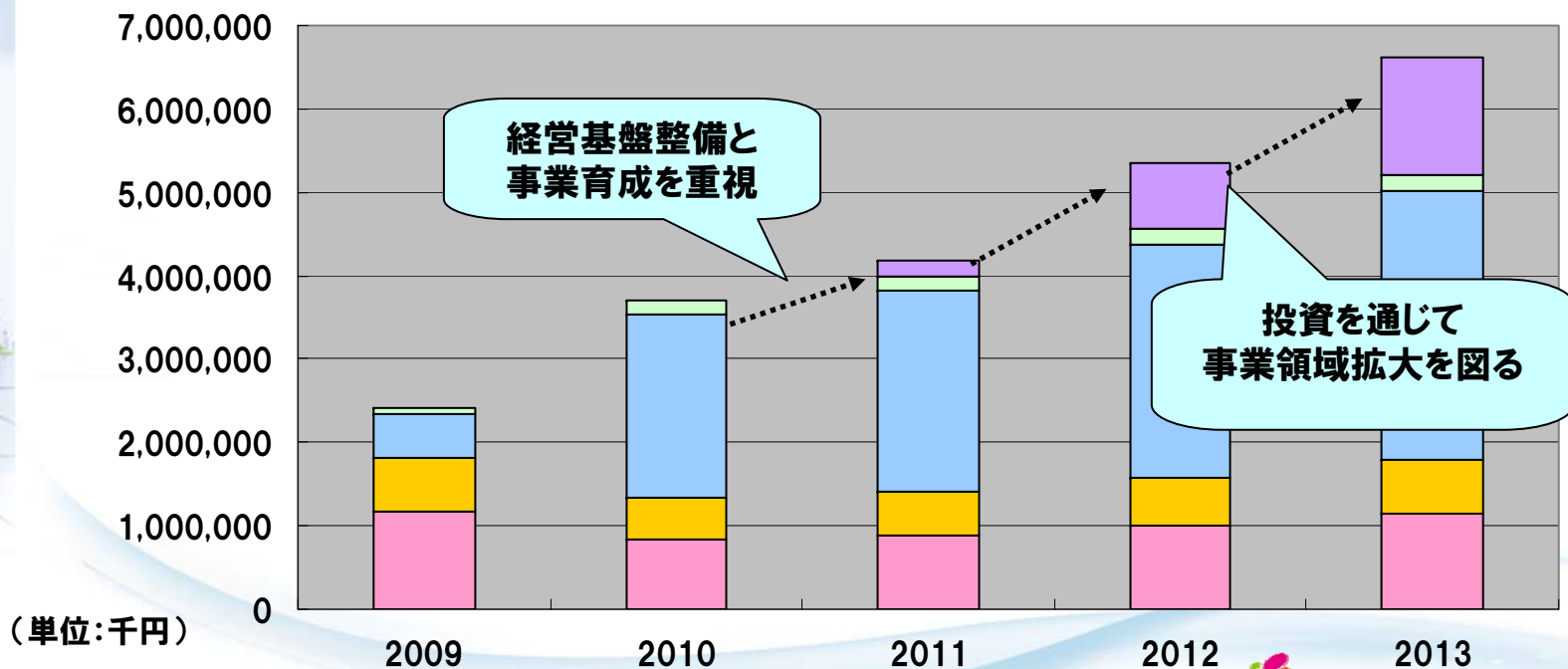
	2010年実績	2011年予想	増減	増減率
売上高	923,178	820,000	▲ 103,178	88.8%
営業利益	83,401	110,000	26,599	131.9%
経常利益	110,163	110,000	▲ 163	99.9%
当期純利益	320,411	76,000	▲ 244,411	23.7%

- 出版事業における電子書籍関連事業への移行の影響から個別予想は一時的な減収を見込む。
- 収益構造の改善による利益増加で新事業開発のコストは吸収、営業利益は拡大を見込む。
- 2010年の特別利益の影響から当期利益は減少となるが、国内事業は繰越損失の活用で税負担軽い。

# 今後の事業拡大イメージ

- 東南アジアを中心に既存事業拡大と投資が業績を牽引
  - － 相対的に緩やかな成長を見込む2011年の経営基盤強化を通じて次の成長段階を目指す
  - － ファイナンス事業に続き東南アジアでの事業機会獲得を目指す
  - － 再編を終えた国内事業は育成する新規事業を通じた売上成長を図り拡大へ

■ コンテンツ 
 ■ 物販 
 ■ ファイナンス 
 ■ 投資育成 
 ■ 新規



# 株主還元に関する方針

- **業績に基づく安定的な評価確立、株価水準の回復を**
  - 短期的な評価ではなく、業績面での実績の積み重ねに注力
  - Yahooファイナンスでの情報提供の拡充など、投資家向け情報提供の充実を実施中
- **安定配当を確保しつつ業績拡大に応じた見直しも実施**
  - 東南アジアを中心にした今後の成長に向けた資金需要を勘案し、予定配当は1株100円を安定的に維持
  - 今後大幅な業績の変動があった場合に見直し方針に

# ありがとうございました

弊社IRに関するお問い合わせ先

株式会社ウェッジホールディングス  
経営管理本部

TEL: 03-6225-2161

FAX: 03-3548-0566

[wedge-ir@wedge-hd.com](mailto:wedge-ir@wedge-hd.com)

<http://www.wedge-hd.com>

※本資料には将来に関する記述が含まれていますが、これらの記述は将来の業績を保証するものではありません。また、本資料の内容に関しては未監査であり、その内容の正確性および確実性を保証するものではありません。